

学校教育目標	自分を大切にできる子 共に生きる子 山元の子			
	【知】納得するまで追究し、自分の言葉で語る力を育てます。 【徳】自他のよさを認め合い、心豊かに生きる力を育てます。 【体】自他の心や体を大切に、健康に生きる力を育てます。 【公】身の回りの人や学校、地域のために役立とうと行動する力を育てます。 【開】様々な人々との出会いを大切に、進んでかかわる力を育てます。			

学校概要	創立 106 周年	学校長 薄田 秀明	副校長 國司 香織	2 学期制	一般学級: 10	個別支援学級: 3
	児童生徒数: 277 人	主な関係校: 仲尾台中学校 立野小学校 北方小学校 平楽中学校 石川小学校 中村小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
【自分づくりに関する力】 ○聴く・話す(語る)力 ○主体的にかかわろうとする力 ○メタ認知する力 【問題発見・解決能力】 ○思いや願いをもつ ○問題を発見する力 ○ねばり強く探究・追究する力 ○協働的に解決策を見出す力	○仲尾台(仲尾台中、立野小) ○平楽(平楽中、中村小、石川小)	○仲尾台「自律と自立ができる子」 ○平楽「地域社会と共に生きる子」 ○仲尾台 ◆身に付けさせたい資質・能力を意識した授業公開、研究協議会の実施 ◆身に付けさせたい資質・能力を意識した授業や部活動等の見学 ○平楽 ◆地域との連携を意識した授業や活動の公開、研究協議会の実施

中期取組目標	○子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、どの子にとっても温かく安心できる学級づくりに努める。 ○豊かな心の育成に向けて、校内や地域の人や自然とふれ合う教育活動を推進する。 ○子どもたちが、対話によって他者を理解しながら、協働的に問題を解決する学びを充実させる。 ○地域の「人・もの・こと」とのかかわりを通して、子どもたちと地域社会とのつながりを深める。 ○保護者、地域の方々、学校協力者との協働による教育活動の充実にも努める。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①授業研究会や研究発表会を中心にしながら、研究主題である「ともにかかわり合いながら、主体的に学び続ける子の育成」に向け、子どもが思いや願い、問いをもち、協働的に探究、追究する授業づくりを進める。②子どもたちの学力向上に向け学力学習状況調査のデータを活用するとともに、Monoxer等のICTを活用し日頃の授業や家庭学習でも基礎基本の徹底を図る。
担当 重点研推進委員会・教務	
徳 豊かな体験	①子どもたちが自ら本物の「人・もの・こと」と関わる体験を重視し、生活科・総合的な学習の時間に各クラス農園を扱う学習や活動を行う。②縦割り活動の充実を図り、異学年とのつながりを深める。③道徳教育を推進し、豊かな心を育成する。④児童が「挨拶運動」へ主体的に取り組むようにする。
担当 環境教育推進委員会・縦割り活動推進委員会	
体 健康・食教育	①農園で収穫した野菜を食材とした給食を提供し、自分たちで育てた野菜をクラス調理することで、食に関する興味関心をより高める。喫食中、栄養職員と関わる場を設定し、進んで栄養職員と関わるようにする。②子どもたちの実態に合った健康課題を学校保健委員会で取り上げ、健康な生活を送ろうとする意識と力を培う。
担当 環境教育推進委員会・児童指導等	
公開 自分づくり教育	①一時間の授業や単元ごと等、継続的な学習や活動を繰り返す時間を確保し、子ども一人ひとりがメタ認知することを通して、自分の生活や生き方をよりよくしていこうとする姿勢を育む。②学校や地域において良好な人間関係をつくるため、自ら地域の人と関わろうとする態度を育成する。
担当 重点研推進委員会・児童指導等	
いじめへの対応	①いじめ防止対策委員会(臨時も含む)の他、主幹会、児童指導全体会において、情報の共有を図るとともに、日々、児童一人ひとりの見取りに基づいた児童理解に努める。②児童アンケートやY-Pの実施により実態を把握する。③組織的な対応や情報共有で早期解決を図る。④子ども会議など、児童が自らいじめについて考える場を設定する。
担当 いじめ防止対策委員会・児童指導等	
人材育成・組織運営(働き方)	①全職員が1回以上の授業公開を行い、研究部会や全体会を通して授業力の向上を図る。②メンター研修を定期的実施するとともに、外部講師を招き、人材育成研修を受け、自身のキャリアを見直す機会を設ける。③Teamsやクラウドミラ임을活用し、情報共有を円滑にし、働きやすくなるよう努める。
担当 重点研推進委員会・メンター・教務	
特別支援教育	①児童一人ひとりの実態に合った学習環境を整備する。該当児童が安心して学習できる場を保障する。②児童支援専任(特別支援コーディネーター)の他、ブロックマネージャー、ブロックサポートができる教員や支援員の配置により、支援を要する児童を中心とした支援や対応に努める。
担当 特別支援校内委員会・児童指導等	
幼保小連携	①入学児童が安心して自己を発揮できるよう副担任などと連携し、幼保小からのスムーズな接続を目指す。②関係幼稚園との交流を進めながら、幼保小で目指す子ども像、指導観に基づいた架け橋期のカリキュラムを実施する。③架け橋期カリキュラムの授業公開や入学説明会の情報の共有など職員全体の理解を深めることで、各学年のスムーズな接続も目指す。
担当 幼保小連携	
学校評価	①教育活動に関する保護者、児童、職員アンケートを実施し、結果について公表するとともに、考察に基づいて学校運営の改善に生かす。②学校運営協議会を年間3回実施し、委員の方々からいただいた児童の様子や教育活動についての評価を基に、学校運営の改善に努める。
担当 評価委員会	
人権教育	①研修等を通して職員の人権意識を高めるとともに、Y-Pアセスメントや横浜プログラムを活用し、授業や生活の中、人権週間等で、児童が人権について考え、思いを発信できる機会を推進する。誰もが安心して生活できる学校風土をつくる。②多様な児童の実態に合った校内の環境構成を児童、保護者の思いに沿って進める。
担当 児童指導等・道徳	